

所信

谷本 雄一郎

【はじめに】

「このまちの未来をつくる。そのために我々は自己改革を重ねる」1954年10月14日、そんなおもいに共鳴し合った若者達から始まった運動が松阪青年会議所の起源であります。昭和、平成、令和と激動の時代を青年会議所運動がこのまちに必要とされ続けてくることが出来たのもひとえに偉大なる先輩諸兄姉の努力の賜物であります。その功績に感謝すると共に担いと捉え精進していかなければなりません。

現状に満足する。それは、停滞や後退と同じであると日本有数の経営者である「孫正義」や「柳井正」そして野球界のレジェンド「イチロー」が語っています。それと同様に青年会議所運動もまちをより良くしようと積極的な変革を創造し、開拓する為に失敗を恐れず挑戦し続けたからこそ今日も存在しています。そして、我々正会員一人ひとりのまちへの気概これまで以上に高まっていると私は確信しています。しかしながら、最盛期と比べると三分の一に正会員数は減ってしまっています。数がすべてというべきでは無いが、ひとはひとで磨かれ成長すると同時に、組織に新しい息吹を感じることでさらに向上心を持ち続けることが出来ます。自分たちが社会を動かす原動力であるという当事者意識と奉仕の精神で行動することに誇りを感じ伝播することに努めなければなりません。

青年会議所は地域のリーダー育成機関であります。あらゆる機会を通じ自己成長に繋げ、それぞれの営みの発展が地域に変革をもたらし、国力も高めることに繋がります。リーダーとは他者を敬いおもいやりのこころを持ち、多様な価値観を受け入れる人間力に満ちた組織を牽引していく存在であります。自分に厳しく他者に対しきめ細やかな心遣いが信頼関係を結ぶきっかけとなります。一人ひとりが信頼し合える組織は強固なものとなり、いかなる困難にも立ち向かう勇気と挑戦心を高めることで大きな試練にも立ち向かうことが出来ます。

この組織を継承していくには、ひとが輝ける場であり続けなければなりません。これまでと同じように「明るい豊かな社会の創造」という理念に向かうことを社会への奉仕として共鳴し合った仲間たちと共に、自己改革、組織改革、地方創生、日本、世界をより良くするために運動に努めていかなければなりません。それを支える家族や職場に感謝の心を持って団結し、すべての人々が笑顔で希望を抱き続けることが出来るよう、未来を切り拓く先導的機関としての責任を胸に運動に邁進してまいりましょう。

【ひとづくり】

指導者とは、理想の自分。我々は組織をさらに強固なものとする為に、自己改革に邁進し続けなければなりません。ひとはひとと関わることで自分に足りない何かに気が付き、成長の種が内にまかれます。そしてその種が花を開かせるために修練を重ね成長し、昇華してまいります。圧倒的な努力は周りにいる者へも刺激を与えます。

組織を牽引出来る存在である指導者と指導する立場の人間と似ているようで全く違います。前

者は、組織を動かすことを目的に行動するのではなく、相手の立場に立ち、きめ細やかなおもいやりのところが多様な価値観を受け入れることの出来る人間力に満ちた存在であります。後者は、組織の目標や目的の為に相手を動かそうとする存在、もちろん我々の目指すべきは前者であります。

多くの青年会議所が直面している会員数の減少や、世の企業が苦勞している人手不足問題を解決するのは難しいことはありません。多様な価値観を認め合い、個性の違いを強みと捉えることでその組織は結束力が高まります。一人ひとりがやりがいを感じ、目指すべき人財として成長することが組織の繁栄をもたらす社会に必要とされ続ける人財を輩出し続けられるのです。「社会を動かすのは自分たちだ」と気概を高め、自分磨きの場としての青年会議所運動に邁進してまいります。

【地方創生】

地方創生、それはこのまちにすまう人々が笑顔に暮らすまちづくりであります。我々がすまう松阪の礎を築いた蒲生氏郷は、義父である織田信長から天下泰平の世の中を創るにあたって、これまでの常識や固定概念を壊し新たな発想を元にしたまちづくりが必要だと教え込まれ、松阪にも「楽市楽座」制度を推し進めました。

「社会を動かすのは自分たちだ」という当事者意識が、青年会議所の三信条にある「奉仕の精神」に他なりません。社会開発まちづくりの根幹は、このまちにすまう我々が、子を育み、企業やまちを繁栄させることです。我々会員が直向きにまちと関わることで、周りにいる家族や職場の人々にもそのおもいは伝わり、それが郷土愛を育み、文化継承のコミュニティを創出することで、喜びを分かち合う「ふるさと」を築くことが出来てまいります。世の中に生かされているという気持ちを忘れず、感謝の心を持ち、持続可能なまちづくりに必要とされ続ける運動に邁進することで、ひとが地域を創り、地域がひとを育むという好循環となります。全てのひとが幸せを実感できる事業の実現を目指してまいります。

【未来への種まきである次世代育成】

我々は、まちの宝である子供たちが希望を抱き続けることが出来るよう、道を切り拓く先導的人財とならなければなりません。夢を描くことのすばらしさやそれに向かう事の尊さを我々が身を持って示していくことが次世代育成の本懐です。無限の可能性を秘めている子供たちが、我々の背中を見えています。我々が範となり、道標として将来に希望を持てる社会を創造していくことが責任世代としてのあるべき姿なのです。

ひとの誕生は未来への最大の種まきであります。最愛の人と出会い子を育む。自分たちがここにいることは、人類の誕生から綿々と受け継がれてきた子孫繁栄の歴史であります。しかしながら、人間関係の希薄や自分本位の生き方そして核家族化、待機児童問題などの子育てインフラの不備など様々な要因から子育てしにくい現代社会を迎えています。

我々、松阪青年会議所正会員の平均年齢は約 35 歳。まさに子育て世代と言えます。この地域

で大きく根を張って、子育てに前向きに取り組むことこそ最大のひとづくり・まちづくりではないでしょうか。子育てで日本一のまちを目指す運動に邁進してまいりましょう。

【同志の拡大に向け】

向上心を持ち続け、常に新しい息吹を感じる組織を継続していく為に、志を同じうする仲間を拡大する。このまちをより良くし、このまちに必要とされ続ける組織としてあり続ける為に、我々の青年会議所は前に進み続けなければなりません。組織を向上させるには、常に新しい潤滑油が必要であります。青年会議所は20歳から40歳までという限られた時間の中で、ひとがひとと出会いさらなる高みを目指す中で、共に切磋琢磨し合い成長を遂げる場所であるからこそ青年の学び家なのです。

人財不足が叫ばれる昨今、我々の組織も会員数の減少は喫緊の課題であります。魅力ある組織や場所には人が集まります。青年会議所にしかない強み「修練・奉仕・友情」という三信条を根底に運動を明確な目標と計画を立て、同志の拡大に努めてまいりましょう。

【出向制度について】

出向とは、我々が属す松阪青年会議所だけにとどまらず、三重ブロック・東海地区・日本・世界に向けて各地から学びやきづきを求めて出向くことであります。さらなる高みを目指す、志高き同志たちと重ねる経験は必ずや自身への大きな財産となると共に、我々の組織にも必ずや多くの実りをもたらしてくれるはずで

す。我々会員は、自ら進んで青年会議所の門をたたき入会に至っています。本年度は、出向の枠や制度を正会員皆が把握していただくことで、自ら進んで学びやきづきを求めて頂きたいと思

【むすびにかえて】

組織を継続していくには常に時代の流れに合わせ運動を進化していかなければなりません。そこで大切になるのが、どんなことがあろうともやり抜くという気概と挑戦するところです。失敗を恐れず挑戦することが出来るのが青年会議所です。若者としての英知と勇気と情熱を持ってすればどんな大きな課題も乗り越えることが出来ます。「やる」か「やらない」かを問われた時に即座に「やる」を選択するのが、JCの神髄と教わってまいりました。それを念頭に置いたうえで、本年度の松阪JCでは、「JCに入りたい・JCをやりたい」と感じ、挑戦心溢れる会員の増強を目指す為に、組織・入会・人財の3つの改革に着手していくことで、様々な課題に向き合ってまいります。20歳から40歳という限られた時間の中で、青年会議所運動を通じてどれだけ成長できるかは自分次第です。自らが進んで役職を受けることを望めるような組織づくりにしていかなければ組織の未来はありません。会員一人ひとりが輝き主役となれる青年会議所を創造してまいりましょう。